

## 大雪山国立公園連絡協議会（総合型協議会）準備会（第2回）

### 議事概要

■日 時：平成31年2月20日（水）13:00～15:10

■場 所：十勝総合振興局 講堂

■出席者：資料のとおり（出席者名簿のうち鹿追町商工観光課観光振興係 野口氏は当日欠席。役職等のうち十勝自然保護協会の川内氏の役職を代表から事務局長に訂正。）

### ■概 要

1. 開会（挨拶：北海道地方環境事務所 大林統括自然保護企画官）

### 2. 議事

（1）大雪山国立公園フォーラムの開催結果について

（事務局）

- ・ 資料1について説明。

⇒質問、意見等なし。

（2）大雪山国立公園ビジョン（素案）について

（事務局）

- ・ 進め方について、事前送付させていただいているため、特に皆様からご意見をいただきたい「1（1）大雪山国立公園の優れた価値」の部分、「3. 大雪山国立公園の目指す姿」の部分、「それ以外」の3つの部分に分かれて効率よく議論したい。

1) 大雪山国立公園優れた価値について

（事務局）

- ・ 資料2 1.（1）に沿って説明。
  - ・ 第1回の準備会にて大雪山のもつ価値やブランドを作り上げて、共有することが大事という御意見があったため、この部分も重点的に議論することとした。
  - ・ 日高累群層となっているが、日高累層群の誤りであるため、訂正いただきたい。
  - ・ 補足として、大雪山という山がどのような価値をもつのかという記述にしてみると、山に対する思いや考え方は人それぞれであり共通認識が得られにくいと考えたため、国立公園のもつ価値について、その指定理由を中心に記述を組立てた。
- ⇒以下、主な質疑応答。

#### (十勝自然保護協会)

- ・ 2 ページのコラム 1 行目に「岩谷松五郎」とあるが、「松原岩五郎」の誤りであるため訂正いただきたい。
- ・ 自然保護の活動に長く携わる者から見ると納得できない部分がある。それは、2, 3 ポツ部分について、山と溪谷社のガイドの方の記述そのままであること、その中に「人間活動により失われず、原始的な状態で残されてきました」という記述が間違いであると思うこと。現在でも相対的に見れば豊かな自然がある国立公園ではあるが、人間活動によって生態系は損なわれ、指定当時の原始的な状態は保たれていない。このような経緯を踏まえ、今後は人間が関わっていけるような優れた景観、生態系を保つ努力が一方で必要ということも記述に付け加えた方がよいのではないかと思う。
- ・ 上記「大雪山自然観察ガイド」は引用文の多いものになっているが、敢えて注釈として載せなくてもよいのではないか。
- ・ 2 ポツ目は、地質の部分は、記述に重なる部分やちょっと違うと思う部分があったため、整理してわかりやすく表記したほうが良い。

#### (北海道大学大学院農学研究院 愛甲准教授)

- ・ 「多様な」、「様々な」という記述が多くあるが、全般的に具体性に欠けて、何が優れた価値なのか具体的にわかりにくいと感じた。例えば、動植物については、大雪山の希少種、固有種に触れながら記述してはどうか。
- ・ 指定理由を価値として記述しているが、価値として記述した理由により国立公園に指定されたということを率直に記述してはどうか。(2) 歩みにも記述はあるが、1934 年に日本で最初の国立公園に指定されたこと、面積も一番広くて、私有地の面積も少ないことも含めて、価値であることをはっきり記述してはどうか。
- ・ お花畑を楽しみに来る登山利用者など利用に関する価値も記述すべき。
- ・ 大雪山国立公園の特別保護地区のエリアが天然記念物に指定されていることも触れなくて良いのか。
- ・ 日本遺産のことが記載されているが、上川アイヌに関する記述等もう少し具体性があるのではと思う。

#### (事務局)

- ・ 自然の資質が指定当時から比べて変わってきているというご指摘は、次の歩みの部分に記述しているので、その記述も併せてみて総体的にご理解いただきたいと思う。この部分では、大雪山国立公園の持つ価値をわかりやすく記載することに努めたい。
- ・ 大雪山国立公園の成り立ちについては、色々な専門書や文献を参照して分かったことであり、それをもとに公園計画書も記載したところ。結果として、その内容

を最も分かりやすく記述していたのが山と溪谷社の「大雪山自然観察ガイド」の記述であると感じたため参考文献として掲げた。注釈については、記述の仕方についても含めて検討したい。

- ・ 自然が損なわれているという指摘及びそれを踏まえてどうするかという部分について、価値の部分のみでは書けないが、記述について検討したい。

## 2) 大雪山国立公園の目指す姿について

### (事務局)

- ・ 資料2 3. に沿って説明。
- ・ 目指す姿は、それぞれ立場が異なるものの、立場を超えて一緒に目指すことの出来る共通の目標であると考えておい、ビジョンの中で核となる部分であることから、特に皆さんそれぞれから御意見を伺いたい。また、キャッチフレーズについては、提案1～3について、それぞれどれがよいと考えるか御意見を伺いたい。

### (上川総合振興局)

- ・ ビジョンについては、総じてまとまっていると感じる。追加したほうが良いと思う点は、情報の発信と合わせて、情報の収集、つまり、現状がどうなっているか把握し続けること。現状の把握、収集、蓄積、巻き込む（共有していく）を継続的に行うことが大切ではないかと感じている。
- ・ (4) 1ポツ目について、民間が参入しやすい環境を整えることが重要なことであるのでその旨記述を追加することを考えたが、主語が「私たちは」であれば、追加する必要はないと思われる。また、ファンを増やす、裾野を広げるといった言葉を入れてもよいと思う。
- ・ キャッチフレーズについては意見なし。

### (十勝総合振興局)

- ・ ビジョンの内容については、特段の意見はない。
- ・ キャッチフレーズについてもこれらの中から検討することで良いと考える。

### (上川町)

- ・ キャッチフレーズは、提案3が良い。これを着実に実現することにより、大雪山国立公園が価値のある姿になると思う。
- ・ 自治体で観光面を担当する立場としては、今回作成するビジョンを契機に大雪山というネーミングの訴求効果により多くの利用者が上川町に訪れるようになるとよい。上川町としても、市民交流型事業である大雪山大学などの取組を通じて大雪山の価値や恵みを広く伝える努力をしているところであり、このような取組は目指す姿の実現にも結びつくと思う。

- ・ (3) の利用拠点には、高原温泉も加えてほしい。

#### (上富良野町)

- ・ キャッチフレーズについては、提案3が目指す姿としては良いと考える。
- ・ 今後は、登山道の維持管理を具体的に進めるため、外国人を含め利用者をさらに増やすためにも、地方自治体は財源も予算が厳しい部分があるため、例えば、協議会を通じて国に対して財源や予算を要求していくなどの取組が重要になると考える。
- ・ 現在各団体で作成しているホームページについて、英語表記があるものやないものなどまちまちであるため、共通した課題として協議会の中で取り組んで統一したページ等をつくるのか、地域や施設ごとの取組として行っていくのか、ということが気付の点である。

#### (士幌町)

- ・ キャッチフレーズは、登山道で作業している方の後継者不足等の課題もあるため、後世に引き継ぐという内容が含まれる提案3が良い。また、提案2についても、日本遺産の動きがあるため、山とアイヌをつなげていくという観点からは良い。
- ・ 目指す姿として、今後、山に関わることができる人が少ないので、その点に関する対策を強化できると良いと思う。

#### (上士幌町)

- ・ ひがし大雪自然館にいて、自然や観光の情報発信等を行っているが、利用者からは東大雪地域に限らず大雪山国立公園全ての登山、自然、林道等の情報について聞かれるので、考えさせられることが多い。
- ・ ビジョンは、どのような立場に立って作成するかにより良くも悪くもなるため、大雪山国立公園を愛する人々の立場にとって良いものになるようにしてほしい。
- ・ キャッチフレーズは、いずれも良いと思う。

#### (鹿追町)

- ・ キャッチフレーズは、提案1が良い。日本人であっても大雪山の読み方を「だいせつざん」と知らない人もいるからローマ字が良い。
- ・ 提案2についても日本遺産の観点からは良いと思うが、同じく文化財としては天然記念物などもある。情報を入れすぎるとキャッチフレーズが長くなるため、要素は見極める必要があると思う。
- ・ (2) に「大雪山グレードに応じた保全と利用」とあるが、例えば、単純に入込数が少ないため登山道整備をしないという判断ではなく、登山道の整備や管理は、地域の要望を聞いた上で地域の要望に合うような形で進められていく必要がある。どの登山道を整備し管理していくのかというような判断基準(ガイドライン)が気になるとこ

る。

(新得町)

- ・ キャッチフレーズは、パッと見たときの印象で提案3が良い。
- ・ 内容についても特段、意見無し。

(上川中部森林管理署)

- ・ (2)の項立てについて、3ポツで「これらの状態が実現することで」という記述があるが、1ポツ、2ポツの内容と、4ポツ、5ポツの内容は、第1段階、第2段階というイメージなのか、3ポツの内容は最後にくるべきものなのか、教えてほしい。

(事務局)

- ・ 1ポツと2ポツ、3ポツと4ポツをそれぞれまとまりと考えていて、1・2ポツは登山道の管理、保全について記述し、3・4ポツは利用、活用について記述している。登山道の保全を実現しさせた上で、3ポツ以下のような適切な利用を推進していくという意図とした。

(上川中部森林管理署)

- ・ 必要な基本的な整備と安全に関する情報発信、維持をするための人の体制作りがそろって、本当に利用者が気持ちよく使っていける体制ができると読めるため、並びとしては、3ポツを最後にもってきて良いと感じた。
- ・ 取り組みたい内容として情報発信、必要なものとして安全や観光に関する様々な情報発信がかなり強く意識されていると感じたため、情報発信に関する項目を一つ立てても良いと感じた。
- ・ キャッチフレーズについて、希望なし。

(上川南部森林管理署)

- ・ 上川中部森林管理署からの意見は、南部森林管理署の意見も含めたものとして理解しており、追加意見は特になし。

(十勝西部森林管理署東大雪支署)

- ・ 情報発信が集約されれば、一般の人にも分かりやすいため検討をお願いしたい。
- ・ キャッチフレーズは意見なし。

(北海道開発局)

- ・ 質の高いエコツーリズムを核としたにぎわいのある国立公園は大切であるが、山の事

故が多く発生している状態であることから、安全に関する項目もあっても良いと感じた。

- ・ 今後の課題として、登山をはじめとした利用ルートなどを外国人を含む利用者に情報発信して周知徹底等を図り、無理な利用をさせないような体制づくりが必要と考える。
- ・ キャッチフレーズは意見なし。

#### (北海道運輸局)

- ・ 外国人観光客は今後も増える見込み。これまで日本に目が向いていなかった中国内陸部の人々やベトナムなど東南アジア各国の人々はまだ団体旅行が主流であるため、ターゲットを個人客にするのか団体客にするのかはバランスが必要ではないかと考える。
- ・ 利用者を誘客するために、インフラの整備については賛成であるが、利用者が増えて自然環境が破壊されることやインフラ整備で自然環境が破壊されることに懸念があるという話も聞くため、どれだけ利用者を増やすかという目標と、環境をどこまで守るかのバランスも必要になると考える。
- ・ 国立公園のなかの利用は登山になるが、十勝管内では、グランピングを中心とした旅行形態を進めているところがあり、一般の人が、手ぶらでグランピングを楽しむことを提案するところがこれから増えてくることが予想されることから、山麓で気軽にキャンプや景観を楽しむ人たちをターゲットにした整備も必要になってくると考える。
- ・ キャッチフレーズは、特に意見なし。

#### (かみふらの十勝岳観光協会)

- ・ 夏冬問わず、外国人が増えており、旧噴火口の中までサンダルで歩いて行く人もいる。
- ・ 登山道も現状で荒れてきているが、自然状態では斜面が崩れて山肌が剥き出しになる場所があったり、ササが山の上まで進入して高山植物が減少したり、自然環境の変化も懸念している。
- ・ 管理者不在の登山道については、みんなで整備するにしても、基盤を整えないと整備はできないため、まずは基盤を整えることを進めて行く必要がある。また、整備についてもボランティアばかりではできないため、予算の集め方についても検討が必要と考える。
- ・ 十勝岳では、登山道が不明瞭であり、看板や杭を打つだけでも申請がいるため、協議会であればある程度できることもあるのではないかと考えている。
- ・ 大雪山は、区域も広く、人数も多いため、観光や地域のことなど部会に分けて検討すれば、課題解決の進みが早くなるのではないかと考えている。
- ・ 上富良野町では、ジオパークの取組などでは子どもを巻き込んでいる。山に関して

は現在、学校登山も行われていない状況であるため、まずは、子どもの力を親も巻き込んで借りたい。そのあたりの取組が自分たちでできそうなので、できる取組からやっていきたい。

- ・ 上富良野町から来た3名で朝、タウシュベツ橋を見てきた。大雪山は広くてこれまで行ったことがなかった。撮影した写真は素晴らしく今後上富良野の観光客の方に見せたい。同じ国立公園の他の地域のことを知る意味でも、協議会は必要だと思う。
- ・ キャッチフレーズは提案3がよい。

#### (ふらの観光協会)

- ・ キャッチフレーズは、提案2が良いと考える。
- ・ 観光の立場から極論を言えば、自然を守るだけの目的であれば人を入れられないという施策を考えれば良いが、それでは目指す方向とは異なることもわかっており、観光客を受け入れて、日本で最初の国立公園として世界に見てほしいのであれば、そのための財源として、入山料や観光税といった考え方が必要と思う。
- ・ 観光経済で考え方に基つけば、受益者負担は最も重要な原則で、財源があることが全ての事業の基本。本協議会ではビジョンを検討しているが、ビジョンだけではダメ。受益者負担で先行的な取組をしている富士箱根伊豆国立公園のようにインバウンドにもPRできる大雪山にしていければと思っている。

#### (南富良野まちづくり観光協会)

- ・ キャッチフレーズについて、提案2のあとに、「大雪山」を付け加えてほしい。十勝方面の方はわからないかもしれないが、カムイミンタラが大雪山であることは、旭川では定着しており、神々の遊ぶという深い意味をもつものなので、「カムイミンタラ」はつかっていただき、文章の最後に大雪山と入れてほしい。
- ・ 早くビジョンを決めて、実際に取組を進めていただきたい。利用が増えることで温泉街やガイドが儲かっても、そのお金が直接地域や環境保全に回るとは思えないため、入山料を取って、そのまま環境保全に使う。また、遭難が起きたときに地域の対応が非常に大変という理由で、山岳利用について消極的になっている自治体も見受けられるため、入山料を使って支援体制をつくるなどモデルケースになれば良い。

#### ((株)りんゆう観光)

- ・ キャッチフレーズは、一般の目に触れることが多い。大雪山が世界に誇るものという認識をしてもらうため、また、まもり、活かしという我々がやらないといけないことが端的に記載されている、提案3が良いと思う。

#### (十勝バス(株))

- ・ キャッチフレーズは、「まもる」という表現により、利用者にマナーや環境に関することがわかってもらえるため、提案3が良いと思う。
- ・ 高校の学校登山で学生を登山口まで送迎することがあり、登山口までの林道が狭いことがあった。今後、インバウンド含め利用が増えることで、団体利用や学校登山のバスの送迎に対応した登山道や駐車場の整備も必要になってくる。また、登山者の力量に応じて、登山道を整備したり、保全対策を行ったりすることも必要と資料をみて感じた。

#### (北海道拓殖バス(株))

- ・ 要望となるが、帯広から旭川までバスが走っているが、三国峠の停留所に電波が通じにくいところがあり、災害等で道路が通行止めになった際に連絡がとれないことがあった。通信手段の整備についても今後検討していただきたい。また、通信設備は、登山中にも何かあった場合の対策としても有効であり、景観面、費用面もあるが検討してほしい。
- ・ キャッチフレーズは、提案2の文章の最後に「大雪山」と付けたものがよいと思う。

#### (十勝自然保護協会)

- ・ 字句修正は、細かな部分もあり、書面にて提出する。
- ・ (2) 5ポツ文章中の「おもてなし」は違和感があるため、削除してほしい。また文章が複雑と感ずるため、「登山者の参画を得た維持管理を推進し」のみで十分と感ずるため、文章を単純化してほしい。
- ・ (4) 2ポツ「また、それぞれの立場で抱える課題を～」の文章がわかりにくい。これも単純化してすっきりさせてほしい。

#### (北海道大学大学院農学研究院 愛甲准教授)

- ・ ビジョンがどういう位置付けがそもそも記述されていないことが問題であり、そのため、目指す姿が何を指すのかわからなくなっている。
- ・ 目指す姿について背景や課題、取組については、別途記述があるため、もう少し記載、体裁を整えていただきたい。項目ごとに文章の長いものがあったり、ポツの数が違ったりといったやむを得ない部分はあるにしても、全体として文章のスタイルを揃えると、読みやすく見やすく、頭に入りやすいものになると思う。
- ・ 全体を通して、目指す姿の中に、ビジョンの記載もあれば、具体的なアクションまでの記述もあり、項によって記述のレベルがバラバラになっている。これは、この文章がビジョンのみを記載するのか、具体的な施策まで含めて記載するものなのかという位置づけが不明確であることが原因。
- ・ (1) について共有することは大事であるが、「まもる」という概念が抜けていると思う。

- ・ (2) 大雪山グレードという固有の言葉よりは、大雪山グレードで大事にしている管理水準の考え方が記載されていないと、大雪山グレードが持つ元々の考え方が失われてしまうと考える。また、ビジョンを10年で達成するという目標にしているようだが、10年で荒廃が解消すれば良いが、それはあまりにも大変で無謀なことであり、このままの記述で良いのだろうかと思ってしまう。
- ・ 携帯トイレの普及によりし尿の問題が解決すると記述があるが、携帯トイレだけでし尿の問題は解決するものではないので、考え方も含めて表現を修正していただきたい。
- ・ (2) 5ポツ、(3) 4ポツのネットワークの記述は、(4) でまとめたほうが良いのではないかと思う。
- ・ (4) には、人材を育成することも追加で記述してほしい。
- ・ 全体的に登山のことが記述の中心になっており、観光のことに関する記述が不足している。これに関連して、国立公園内とその周辺地域との連携についても記述があってよいのではないかと思う。
- ・ キャッチフレーズは、提案3が良い。最終的に海外にむけても発信するときに、英訳にする必要があることも考えて選んだ方がよい。

#### (北海道大学大学院環境科学研究院 渡辺教授)

- ・ 誰に対して、何のために作っているのかがわからない。
- ・ (1) に記載されている優れた価値の具体的内容は1ページで記述があるが、これは(3)と大きく結びついていて、ここにエコツーリズムという言葉を使うことに非常に違和感がある。
- ・ (1) に生物多様性を守り、未来に、後世に伝えるとあるが、現状のままの状態が目指すビジョンであってそれを伝えたいのか、それとも10、20年前の状況に戻して、もっと自然保護を強化した状態で伝えたいのか、わからない。現状を伝えるということが、本当に良いのかは考える必要がある。
- ・ (2) 「解消」と書くと、できなかったときにどうするのかという話になるので、「軽減」など、書き方を変えるのが現実的ではないか考える。自然環境を保護や保全していくことを強調してほしい。
- ・ (3) 「エコツーリズム」の記述があるが、価値の部分で述べられていることはジオに関することであるため、大雪山の価値を伝えるのであれば、エコツーリズムではなく、ジオツーリズムになると考える。ただ、ジオツーリズムのみを記載することに支障があるのであれば、環境に優しいツーリズムということが言いたいことなのであろうから、そのように記載すればよいと思う。現在の記述を維持したいのであれば、エコツーリズムだけでなく、ジオツーリズムも併記しなければ受け入れがたい。
- ・ (4) 「みんなが」、「私たち」は一緒なのか。協議会の構成員のために作っていく

のか、国民のために作っていくのか。誰に対してか明確に記載すべき。仮に協議会の構成員のためにつくるものであるとすれば、国民にそっぽを向かれてしまうのではないか。

- ・ キャッチフレーズは、提案1の場合は「地域で」を「みんなで」に変更してほしい。「地域」とすると、環境省など国が含まれていないと思われるので、「みんなで」とするのがよい。Daisetsuzan は、「だいせつざん」なのか「たいせつざん」なのかかわかるため、大事なメッセージだと思う。
- ・ キャッチフレーズの提案2は、カムイミントラは道民しかわからないため、最後に「大雪山」をつけるなら良い。
- ・ まもり、活かし、つなげるは、目指す姿(1)～(4)が全て網羅されているため、提案3が良い。ただし最後の「大雪山」は「Daisetsuzan」、「だいせつざん」にするのは一つの方法だと思う。

#### (北海道大学観光学高等研究センター 木村特任教授)

- ・ 誰に向けた、誰のためのビジョンなのか見えない。
- ・ 観光の関係者のみならず、裾野をどこまで広げるか決める必要がある。来訪者の視点をビジョンに加えるべきではないかと考える。
- ・ 東大雪地域の観光案内所では、大雪山に紐付いた情報が少ない。そのため、観光案内の方がこのビジョンをみて、理解して、外の人に伝えられるものなのかどうか、来訪者は理解出来るものなのかという視点がビジョン作りでは重要であると考え。
- ・ 裾野を広げるということは、観光案内の方が理解し伝えていくことが重要な視点であり、その先に、観光税や入山料の話があり、ビジョンを実現するために必要なものであれば観光税についても記述はあってよいが、そこがはっきりしていないので、誰に向けてという部分を明確にすべきと考える。
- ・ 具体的でない部分について「おもてなし」、「みんなで」、「観光者を増やす」はなんとなく理解できるが、その後のことを記述しないと、ぼやっとしてしまうと感じた。
- ・ キャッチフレーズについては、わかりやすさ、共有しやすいもので提案3がよいと考える。まもり、活かし、つなげようの言葉は、全て、今ある課題や考えていかなければならないことが紐付いているため、提案3が良いと考える。
- ・ 「世界に誇る」は、まずは、「北海道に誇る」や「地域が誇る」としたほうが良いと思う。地元で誇れていないのに、世界で誇るとして良いのかと思う部分があるため、個人的には、北海道や地域が誇るで良いと思う。
- ・ ビジョンに対してアクションプランが必要。(4)の実現に向けて、具体的に記述すべきと思った。

### 3) その他の部分について

#### (事務局)

- ・ 最後に1.(2)大雪山国立公園の歩み、2.大雪山国立公園の現状と課題、4.ビジョンの実現に向けてについて意見を伺いたい。

#### (十勝自然保護協会)

- ・ 2ページ歩みの4ポツ目の自然保護運動の盛り上がり、道路関係の記述もあるが、このような評価なのか考えるところがあるため、削除していただきたいと思っている。
- ・ 6, 8ページ、利用者負担の発想については、議論する場面がなく、賛否両論あると思うため、現時点では削除・保留すべきではと思う。
- ・ 6ページ2)利用拠点の低迷の1ポツ目、「たまに賑わいがあるかと思うとアジア系外国人」という表現には大変違和感がある。仮に欧米の人々であればこのような記述をするのだろうかと思う。アジア系外国人に失礼ではないかと思うため、記述を考えていただきたい。

#### (南富良野まちづくり観光協会)

- ・ 6ページの利用者負担の考え方は、賛否両論あるため削除すべきとのご意見があったが、協議会のこの先に非常に重要なことだと考えるため、記述は残していただきたい。

#### (上川総合振興局)

- ・ 5ページの(2)大雪山国立公園の課題には、(1)は、利用に関わる課題の記述であるが、第一に、気候変動による根本的な高山植生の変化やササの侵入がまず課題にあると思う。それを認識して、今後の対策について現状で良いのか、検討しなければならないので、この部分には、気候変動による植生の変化は触れた方がよいと思う。

#### (北海道大学大学院農学研究院 愛甲准教授)

- ・ 4.ビジョンの実現に向けての部分について、管理運営計画等の専門用語が色々出てくるので、できるだけわかりやすく、ビジョンが何のために策定するのかを含めて、本当は、冒頭に目的を記載したほうが良いと思う。
- ・ アクションプランは、管理運営計画につながることをわかりやすく記述していただきたい。
- ・ 4(2)「ビジョン達成目標年」の項について、アクションは評価できるが、ビジョンを評価するのは難しい。そのためには、評価する指標や水準が必要になる。10年を区切りにビジョンの見直しをするや、管理運営計画の中に位置付けてその中で見

直すことでも良いと思う。

- 参考資料について、観光、地域産業、交通アクセスの課題について分析不足を感じる。関係機関が所有するデータ等も踏まえて、現状を整理して課題の抽出を行っていただきたい。

**(事務局)**

- 6 ページ 2) 利用拠点の低迷の 1 ポツ目アジア系外国人の記載について、差別と結び付けて考えられてしまうことは、こちらの全く意図していないことであるため、表現は見直したい。
- 本日発言しきれなかったご質問、ご意見は 3 月 6 日までに送付いただきたい。また、次回の準備会は年度明けを予定。いずれもメールで案内を差し上げたい。

**3. 閉会**